

抜きん出た杭は打たれない

神 奈川県高等学校駅伝競走大会が11月7日(土)丹沢湖周回コースで開催され、私は母校の応援に駆けつけました。そこで、女子チームが総合第5位となり3年ぶりに関東高等学校駅伝競走大会への出場権を獲得し、我がことのように喜ばせてもらいました。

陸 上競技のほとんどが個人種目ですが、リレーや駅伝といった団体種目もあります。この団体種目が日本ではかなりの人気となっており、例を挙げれば、毎年1月2、3日に行なわれる箱根駅伝は、沿道に幾重もの観客が訪れ、選手に贈られる声援が大会を盛り上げています。

人 気の理由は、選手達がチームを想い全力で任された区間を走り、一丸となってゴールを目指す姿に感銘を受けること、そして時には、その団結したチームの力で、下馬評が低かったチームが、高かったチームに勝つことの面白さなどが挙げられると思います。

チームの力は個人の力の集合体ですが、単純に1+1=2ではなく、1+1=3にも4にもなるというプラスαは確かに存在すると思いますし、このような力を持つチームの一員でありたいと思います。

しかし、このようなプラスαの力は、チームにおいて個々が全力を尽くした結果として生まれるものであり、その根底にあるのは個人の力であることを忘れてはなりません。

そこで、自分自身のことも思い返し感じたことは、『市役所の職員である私達は「みんなで何とかしよう!」という意識ばかりになってしまい、個々のスキルアップから逃げてはいないか。』ということです。確かに、



自分自身に無い力を他の人に補ってもらえれば、その時は事無きを得ることもあると思います。しかし、職員数が削減され、一人で何役もこなさなければならない今日、それを常に求められる状況にはないと考えるのが必然ではないかと思えます。

市役所では職員研修の募集を行なっても自ら進んで応募をする職員は少ないと聞きますが、民間では自分自身が費用負担をしても自己研鑽のための研修をすると聞いたことがあります。その姿勢の違いに不安を抱き、個々(職員)のスキルアップなくして、全体(市役所)の向上はありえないことを改めて感じました。

近年の大学駅伝において、外国人留学生の力はチームにとって大きな武器となっています。外国人留学生がごぼう抜きをしてチームの順位を引き上げることももちろんですが、それだけではなく、練習において外国人留学生の抜きん出たレベルに引っ張られること、大会において先頭を走る自信などにより個々のレベルアップが図られることに繋がっています。

今も昔も、市役所では「足並み揃えて」という意識が強いと感じますが、「抜きん出る」くらいの意識を個々で持つことが、今の市役所に必要ではないかと感じました。「出る杭は打たれる」ことを気にして「足並み揃えて」いるのであれば、「抜きん出た杭は打たれない」と考えてみても良いのではないのでしょうか。

(政策経営課 深瀬 弘志)

暴論オピニオン (31)

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

ものを楽しむ心

我が三浦市が、「株式会社三浦市」としての企業戦略を成功させるため、「人事考課制度」を導入してから早く

も4年目を迎えようとしている。現在は管理職に対して実質的に行われているが、そもそも、「株式会社三浦市」の社員（職員）一人ひとりの日常業務を通じて、各自の能力、態度、目標達成度を上司が分析、判断、評価し、人事管理へ反映させるものであり、また、職員一人ひとりの行動をある方向へ導くためのものでもある。

それでは、この「ある方向」とはどういった方向なのか。

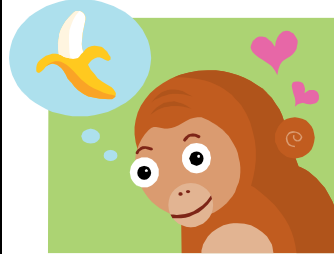
話が最初から少し堅くなってしまったが、筆者は、この方向とは、これからますます活発化していくであろう「自治体間競争」を勝ち抜くため、これまでの旧態依然とした仕事に対する意識ではなく、新たな意識への改革の必要性を自らが認識し、実践していくための方向であると考えている。

これまでは、ベルトコンベア一式に目の前に来た仕事を何となく、その日の時間内に処理すればいいという認識でいれば済んだかもしれないが、これからの厳しい「自治体間競争」を勝ち抜くためには、従来の認識を改め、新たな意識改革が必要であると考えている。

それでは、我々が目指すべき新たな意識改革とはどのような意識なのであろうか。以前、このヒントとなる話を総合心理教育研究所の佐藤隆先生から伺った。それは、ある企業の社員は、睡眠時間が平日3時間から4時間と少ない一方で、仕事には非常に満足しており、その結果ストレスは少ないというものであった。理由は、職員一人ひとりが仕事をしていて楽しく、好きだ、ということである。そして、その結果として優れた商品を開発する能力が湧き出てくるというものであった。このことは、肉体的なつらさよりも、心の窒息が仕事にも大きな影響をおよぼすということである。そして、筆者は、新たな意識改革には、「も

のを楽しむ」ということが必要であると考えている。

私たちは、嫌でも好きでも仕事をしなければならない。そのためには、仕事でストレスをためず、長続きして仕事をしなければならない。であるならば、仕事を楽しくもうとする意識改革が必要である。



人事考課については、ともすれば人が人を評価することに對し、否定的な考えになりがちである。しかし「ものを楽しむ」という思考回路が働けば、職員自ら

の仕事に対する知識の習得などの努力と、上司の適切なサポートなどがあって、目指した目標を達成することができ、それが楽しさにつながるのである。

何より大事なことは、仕事に対して、これから先、嫌々するのか、それとも好きだと思って楽しんでやるのかによって、その結果が大きく変わるということである。

目の前の仕事は大変、でも楽しいから頑張る！仕事なんて楽しくやらなければ損、損！考え方一つで自らの未来は、大いに明るくなるし、もっとよい政策、方法が考えられるのは間違いない。そうしたことが個人のスキルアップに大いに繋がると考えるし、心が充実している人材は、三浦市にとってお金では決して買えない、大事な財産となることは間違いないと考える。

次号(第41号)は12月17日発行です。

「ぼっこすこせえる」とは…神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。



3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。11月13日に『三浦市緊急緊縮財政宣言(脱・イエローカード)』を公表しました。これは、本市の平成22年度予算編成及び今後の財政負担を踏まえて、財政状況が従来以上に極めて厳しい状況であり、黄色信号が点灯していることを改めて公表するものです。

厳しい財政状況は今にはじまったことではなく、これまでも財政健全化に向けた取組を行ってきましたが、本市が置かれている経済状況や社会状況を勘案すると飛躍的に明るくなる見込みはありません。このまま大きなメスを入れずに財政運営を行っていくと財政再生団体となる恐れさえもあります。一方、病院の健全化や土地開発公社の解散は避けて通れない課題であり、待ったなしの状況下です。まさに、未曾有の財政状況であり、乾いた雑巾をさらに絞り込むような取組が必須と考えています。

今回の宣言は、身の丈に合った行政運営と早期に将来への財政的負担を軽減するための指針となるものです。市職員が丸丸となってこれまで以上の行政改革への取組として、経費の削減、財源確保を図ってまいります。

緊縮財政とはなりますが、市民の皆様のご要望に対しては、「YES」からのスタートで、できること、できないことをきちんと判断して、お応えしてまいりますので、将来的な財政健全化のため、なにとぞご理解、ご協力をお願いいたします。